



「水無月はじめに」

校長 池上 育志

新年度が始まり2ヶ月が経ちました。

休み時間の様子を見てみると、お互いに校庭でぶつからないようにしながら、広い校庭が狭く感じられるほどにほとんどの子供たちが校庭に出て上手に遊んでいます。ボールのぶつけっこをしていたり、鉄棒などで技の練習をしたり、雲底や砂場で遊んでいたりと、または、立野山で虫や植物の様子を観察していたりと、様々な方法で休み時間を仲良く楽しむ様子が見られます。遊んでいる様子から、その個々の子供たちがよい状況にあることがわかります。ただ、時には思い違いなどから仲のよい子供たちでも小さな争い等の課題を抱えることもあります。油断しないように担任共々観ていきたいと思えます。

本校で大切にしていることの一つに「あいさつ」があります。自然に自分から出来る子もいれば、相手が出てから出来る子、あいさつを受けてもあいさつが返せない子、様々な様子がありますが、きちんと出来る子は相手の目を見てとても丁寧に言っています。もちろん、あいさつは無理強いして行うものでも、させられる性質のものでもありません。ですが、集団で生活する場においては、必要不可欠なことです。また、あいさつは「出来ること」が普通のことととらえるものでもあります。場合によっては、あいさつ一つ出来ないのかという言葉も、大人になってから耳にすることもあります。

そこで、本校ではいつでも自然に気持ちのよいあいさつが出来るように年間を通して計画的に指導を行っています。今月は4年生と2年生がその当番になる週があります。学校での挨拶の様子等もご家庭での話題にしていただければと思います。

ところで、私は、交通事故に遭わないこと、いろいろな人との関わり合いが上手に行えること等、一見あいさつとは直接関係がないように思われることでも、「あいさつ」が自然に行えるために養ってきた力が、とてもよい影響を与えているのではないかと考えています。「あいさつ」を自然に行えることは、周囲への目配り、気配りが自然に行えるということであり、それだけ普段から周りの様子に気を付けていることにもつながるからです。

さて、水無月になり、今月後半にはどの学年でも水泳系の学習が始まります。水泳はめあてを立てやすく、また、その上達ぶりが努力如何によって大変よく分かる学習です。どの運動も「今、もっている力」から伸ばしていくのですが、水泳系では「今、出来ること」よりも「今、出来ないこと」を克服して次に進むという印象もありがちです。そして、子供によっては大きな壁をつくってしまい、時に恐怖を伴い気持ちが全く逃げてしまうことも少なくありません。「今、出来ること」から少しずつ出来ることを増やしていき、やがて大きな自信がもてるように進めて行ければ、一番望ましいと思えます。そして、出来ないことが努力によって出来るようになること。このことは努力している対象がどんどん好きになっていくとともに、自分自身への大きな自信を得ることになります。学習ばかりではなく、今後の様々な場面における自信にもつながっていきます。

話が少々大きな内容にもなっているように感じられるかもしれませんが、ぜひ、一つのことから大きな自信につなげてほしいと思えますし、水泳の学習は大きな自信につながりやすい学習の一つとも考えます。苦手なことととらえている子供にこそ、よい成功経験を味わってほしいと願っています。